

復興応援団だより

2017. 4/N059
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

千葉県防災訓練で講演

3月5(日)、千葉県習志野市にあるマンション「ザ・パークハウス津田沼奏の杜」とその周辺のマンションが合同の防災訓練を行いました。

復興応援団がこの地域の防災訓練に関わるのは3年連続ですが、今年はひとつの講座を担当しました。テーマは「地域に存在するスポーツクラブが震災時にどのような役割が震災時にどのような役割

のみなさまから頂いた叢書を、たくさんの人に伝えていく努力を続けていきます。
(東北大学 中澤拓也)



新さんさん商店街オープン

3月3日(金)、仮設の店舗から常設の店舗での営業へと、移転・再オープンした「南三陸さんさん商店街」を訪れました。オープン初日ということで、町内外から多くの人々が訪れ、駐車場は車で埋め尽くされていきました。

案内表示板にタコのキャラクター「オクトパス君」が描かれていたり、至るところに南三陸町ならではの特色が見受けられました。またテナント28店舗の中には、飲食店や土産物屋だけでなくコンビニや理容室、整骨院などのお店もあります。こうした取り組みによって、観光客だけでなく地元の方にとっても、親しみのある商店街を目指しているそうです。



新しいこうという空気を肌で感じました。
(東北大学 五十嵐萌)

復興応援団とは？

私たちは、「地元の方が主役の復興」を目指し、主に南三陸町と多賀城市で活動しています。南三陸町では、地元の復興の担い手の元に全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファン」になってもらう取り組みをしています。多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届けするなど、住民のみ



なさんが中心となったコミュニケーションづくりを応援しています。そのような活動を通じて、地元の人自身が復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりを起こすことを目標としています。



↑多賀城市で復興応援団だよりを配布するスタッフ

編集後記

本4月号をもって2016年度復興応援団だより編集チームは解散となります。今年度は新たな試みとして、読者のみなさまから川柳を募集させていただきました。みなさまと何かしらやり取りができたなら、そんな思いから始めた試みでしたが、大変多くのご応募をいただきました。この復興応援団だよりはみなさまの支えで成り立っている、と再認識することができました。

5月号から編集チームは新体制に変わり、復興応援団だよりを作成していきます。新たな試みや企画を行なうことになっても、みなさまに楽しく面白い記事をお届けする、という思いは変わらないと思います。来年度も復興応援団、そして復興応援団だよりをよろしく願います。
(東北大学 中澤拓也)